

令和3年度懸賞論文受賞者を決定(報告)

(公財)九州運輸振興センター

懸賞論文募集は、九州圏における交通・観光事業の発展及び地域社会の活性化に寄与することを目的に、平成25年度から開始し本年度で9回目となります。本年度も大学の先生等の支援、ご協力を頂き、九州内外6大学から6件の応募がありました。

応募のありました論文は、令和4年1月6日に開催しました「懸賞論文審査委員会」において審査を行った結果、以下の通り優秀賞1編が決定されました。

(なお本年度は最優秀賞該当者無し)

優秀論文	受賞者	白樫 龍之介、的場 朱音、出口 絵理 (共同執筆)
	大学等名	同志社大学 商学部 商学総合学科
	テーマ	道の駅における長期的顧客の創造 ～選択肢に入り込む攻めのアプローチ～

優秀賞の「道の駅における長期的顧客の創造」については、道の駅だけに留まらず、道の駅を連携させた観光目的地の活性化を考える取り組みであり応用可能性も高く優れていると考えます。6つの道の駅が立地する地域全体のアピールポイント、コンセプトの整理や道の駅の収益増加にもつながるという点にも着目すると、さらに良い論文になったと思われます。といった意見が委員会において出されました。

なお、新型コロナウイルスの国内感染拡大防止の観点から授賞式は開催せず、国内での感染状況をみながら、受賞者には竹島会長より個別に表彰状と副賞の授与を行う予定としています。

(参考)

○ 懸賞論文審査委員会委員名

星野 裕志	九州大学 大学院 経済学研究院 教授
千 相哲	九州産業大学 副学長 教授
辰巳 浩	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授
近江 貴治	久留米大学 商学部 教授
西畑 知明	九州運輸局 観光部 部長
大黒伊勢夫	(公財)九州運輸振興センター 理事

なお、受賞論文の要旨については、以下に掲載しております。

「道の駅における長期的顧客の創造」
～選択肢に入り込む攻めのアプローチ～

白樫龍之介
的場朱音
出口絵理

(キーワード) 道の駅、少子高齢化、地域観光、持続性、顧客の創造

論文要旨

道の駅の来訪者を増やす方法は何か。この問いの答えを導き出すことが本稿の目的である。結論から言えば、その答えは長期的な顧客獲得である。なぜなら、それが現状の道の駅の課題を解決する方法だからだ。その課題とは、道の駅運営者、消費者への調査結果から浮き彫りとなった。それは、持続性である。持続性という課題の解決には、長期的な顧客の確保が必須であり、それが利用者を増やす最善策なのである。

では、長期的な顧客の確保には何が必要なのか。それは、未来の顧客の創造である。当然ながら、彼らの目的地の選択肢に入らなければ、道の駅に訪れる未来は確実に訪れない。マーケティング的視点である意思決定プロセスに乗っ取ると、選択肢の集合である考慮集合に入るためには、記憶と出会いが非常に重要となる。そこで、我々は子供が未来の顧客となる可能性が高く、道の駅の来訪を家族との思い出と紐付けることで強く彼らの記憶に残すことが可能だと判断した。また、道の駅の連携による周遊観光を行う事でPR力を高め、新たな顧客との出会いの機会を増加させることで、記憶・出会いの双方向からアプローチでき、考慮集合に入る確率が大きく上昇すると考え、課題の解決策として「ファミリー層をターゲットとした道の駅の周遊観光」を提案する。

本稿では、実際に熊本県合志市の周辺に位置する7つの道の駅の連携による周遊観光の具体案や実現に向けての取り組みなどを説明する事で、実現可能性、拡張性の側面からも本提案を検討しており、従来になかった自ら顧客を創造する攻めの顧客獲得が現在の道の駅には必要不可欠であることを説いた内容となっている。顧客を創る。これが我々の提案の最大の特徴である。

○令和3年度第1回懸賞論文審査委員会（2021年4月26日）



○令和3年度第2回懸賞論文審査委員会（2022年1月6日）

